

ここに注目
お庭拝見



賞心庭の橋を隔てて奥は、中根金作による作庭。初夏には蓮の花が咲き乱れます。



日陰では、実際の木々よりも、水面に反射する木々の方が色鮮やかに見えることも。



一來亭

史料でしか見られない千利休の一畳台目の茶室を、茶室・数寄屋研究の泰斗である中村昌生の監修により「一來亭」として復元。



荘厳堂

200点もの白隠のコレクションを誇るギャラリー・荘厳堂。元祖マンガのひとつに数えられる白隠ワールドを覗かれます。白隠は、地獄に落ちたくないという理由から仏門に入ったといわれるチャーミングな一面も。



江戸中期、臨済宗中興の祖といわれた白隠



音のない水の流れるを聴く



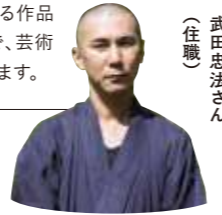
無明院庭園



含空院

五感ポイント
聴く

夏は池を囲む青もみじがいつそう鮮やかに見えます。坐禅をして心が整った後に庭園を眺めてみると、見え方が変わってくるので、お勧めです。白隠禅師は、禅に馴染みのない人にその魅力が伝わるよう、数々のユーモア溢れる作品を残しました。神勝寺は、庭で、坐禅で、芸術で禅を知ることができる場所だと思います。



武田忠法さん (住職)



洗庭 Photo: Nobutada OMOTE | Sandwich



洗庭の奥の庭

この庭も中根金作による作庭

中根 3世代の共演
静寂に
耳をすませば...

臨済宗建仁寺派の神勝寺は、1965年建立の禅寺。その本堂・無明院の前に広がる枯山水庭園は、昭和の小堀遠州と称えられた中根金作(中根庭園研究所)による作です。枯山水の音のない水流に耳を傾けていると、自然と自分の心の内もしんとしてきます。庭を通して、禅的な体験ができる場所といえるでしょう。一方で、総門を通ってすぐ見える賞心庭は、中根金作の子・中根史郎と孫・直紀の合作。その名の通り、中央の池は「心」の字をかたどっており、心のごとく広がる大海を表現しています。住職の武田忠法さん曰く「金作先生の特徴は石組みに表れている」とのこと。中根家3世代の共演を、ひとつの寺内で楽しめる稀有な場所といえます。

また忘れてはならないのは、彫刻家の名和晃平が現代美術の領域から禅を表現したアートパビリオン《洗庭》です。内部では同氏作の水・波・光の全感覚的なインスタレーションが体験できます。アートの側面からも、禅の世界に触れてみてはいかがでしょうか。



神勝寺 禅と庭のミュージアム

ほっ ひと息どうぞ

食事処
五観堂
ここでは「持鉢」と呼ばれる3枚組の器と太くて長い「雲水箸」を使い、うどんを食べます。食を通して、修行僧の気分を味わうことができます。
11:00~14:30
料金:神勝寺うどん1,200円
休業:無休



茶房
含空院
滋賀県の臨済宗永源寺より移築、再建した含空院。この縁側から見える賞心庭の景色がたまりません。境内を一周した後の休息は是非こちらで。
10:00~16:00
料金:煎茶セット800円
休業:無休

